



決断！世代交代

成長タウン 八千代 新政策提言

西田ゆずる

2010

決断！世代交代。

若いファミリー層が増え、人口が安定的な増加を続ける八千代市。京成線沿線・東葉高速線沿線・市北部。全く異なる地域特性を併せ持つ八千代市。それぞれの地域において、子や孫たちの将来と安心な老後を保証するために、地方行政は今何をすべきでしょうか。

八千代市の財政は非常に厳しい状態です。9年連続で赤字が続き、借金頼みの財政運営により将来負担額は675億円に達し、将来の財政支出に備える積立金は枯渇してしまっています。

来年度の予算は現在編成中ですが、すでに大幅な赤字見込みでどうにもならない状況です。本来必要な教育・福祉を中心とする行政サービスは削減されるばかりで、老朽化した施設の修繕を含む公共施設の維持管理費すらままなりません。

一方、今後5年間で70億を超える巨費を投じた市立図書館や総合グラウンド等の整備は、聖域化され推進されています。

新しい施設にばかり目が向けられていて、老朽化した公共物などの既存の施設がながしるにされていないでしょうか。

国からの補助金が出るからという理由で、時代遅れの安易な事業推進がなされていないでしょうか。

今の八千代市には、人に優しさのない市政の姿があります。

このままの市政が続けば、財政はさらに危機的な状況となり、結果、行政サービスの質は低下し、近隣の自治体と比べ八千代市の魅力は相対的に失われます。将来的に人口は流出傾向となり、税収減による財政難が進行するという悪循環に陥ります。

八千代市政の転換を急がなければなりません。

厳しい財政状況だからこそ、政策の優先順位が大切です。

今は義務教育環境の整備と、やむを得ず本当に困っている方への福祉を削ることなく財政再建に取り組んでいかなければなりません。

平成22年11月20日

財政再建と業務改善による市役所改造

新しい八千代市に向けたワン・ツービジョン

陽だまりの街づくり

= 市民本位の市政を復興する

わくわくする街づくり

= 成長タウンの創造的施策



八千代市の財政が危うい！

平成 21 年度決算では

- ・実質単年度収支 この**9年間連続赤字**。剰余金の食いつぶし状態。
- ・経常収支比率 目安である80%を大きく超えた**95.7%**で財政の硬直化が毎年進行。
- ・公債費負担比率 警戒ラインの15%を超えた**16.3%**で、借金返済が大きな重しに。
- ・借金の残高 普通預金残高の370倍にあたる**675億円**。
- ・積立金の残高 **全国ワースト2位**の8億5千万円 (*11月24日付・日経新聞)

さらに、
今、財政規模に合わない巨額投資が進行中、
そして、市民サービスは低下中！

もし自分のお金だったら、投資するはずのない事業が進められていないか！

平成 26 年までの間に 71 億を超える巨額を投じ、新川周辺地区に市立中央図書館、総合グラウンド、橋の新設を伴う観光交流センター等を建設するプロジェクトが進行中。

建設後は維持管理費に毎年3億円超（人件費を省く）。

行政の机上プランは、地盤の悪い所だけに、最終的には、事業費の大幅増加が危惧。
国の補助金は3割程度で、多くは借金。

一方、保育園や小中学校の雨漏り、トイレの故障、用具の老朽化、空調の不備等々、保育・教育環境の低下。休止のまま放置される流れるプールをはじめ老朽化した施設の放置。
福祉施策の切り捨てなど、市民サービスは低下の一途。

自治体衰退の悪循環に突入

不健全な財政運営

行政サービスの低下・老朽化した施設の放置

八千代市の魅力が近隣の自治体より相対的に低下する

流入人口の減少・人や産業の流出

税収の減少

財政難のさらなる進行

今こそ、

「更なる将来へのツケが増え、持続が不可能な市政運営」
から脱却の時！本気の行財政改革を。

閉塞感あふれる八千代市の将来像を英知と決断で回避します。

巨額投資による新規事業で借金が膨らみ、維持管理費の増加と合わせ、市財政の破たんは明白。老朽化した施設は放置され、一方で様々な市民サービスは低下し、閉塞感の漂う八千代の将来の姿。

ハコモノ事業の見直しと事業費を圧縮し、市民本位の施策を見直すことが重要。

堅 実 な 財 政 再 建 3 原 則

【歳入の確保】

- 市税、国民健康保険料、及び保育園保育料等の一元管理などによる各種債権回収の強化
- 未利用・低利用財産の売却と民間への貸付を含めた効率的な活用
- 使用料・手数料等の設定基準の作成

【歳出の削減】

- ハコモノ建設などの大規模公共事業を大幅な見直し
- 市長はじめ特別職の報酬の削減と一般職員数・給与の適正化
- 行政評価と事業仕分けを活用した事務事業の無駄の削減

【将来への備え】

- 将来へのツケとなる借金（市債）残高の圧縮
- 財政規模に見合った適正な積立金（財政調整基金）の確保
- 公共施設の有効活用や維持補修のためのマネジメント計画の作成
- 第三セクターの整理・解散を含めた抜本的な改革

明るく元気な市役所へ（市役所改造計画）

（1）市職員にやりがいのある提案機会を

どのような組織でも「おかしい」ことは「おかしい」と言える環境が必要です。行政もそうでなければ、まさに「停滞を繰り返す組織」になってしまうからです。

職員提案制度の導入を即時に行い、市長との距離感を縮めて、職員のモチベーションを上げていきます。

（2）行政サービスのスピードアップ

市民に行政への信頼と安心感を得てもらう為には、市の対応が、後回し、たらいまわしにしないことが先決です。業務処理スピードを上げるための、無駄な稟議制度を省き、情報システムを導入して、市民サービスのスピード化を推進します。

- ① 庁舎 1 階に総合窓口の設置
- ② 部署横断的な市民対応
- ③ 繁忙期の土日開庁制度
- ④ 諸手続のオンライン化

（3）コミュニケーションシステムの改善

市の事業や政策を分かりやすくオープンに伝えるシステムを構築し、市民からの要望やクレームだけでなく、行政施策改善のヒントとなる生活改善提案を受けやすい仕組みを早急に作り上げます。

- ① 市長直轄の PR のプロフェッショナル（広報官）の設置。
- ② 「広報やちよ」の編集内容の充実
- ③ YouTube 等の活用による市政情報の動画配信局
「八千代チャンネル」の設置
- ④ 問合わせコールセンターの改善



新しい発想、あふれる活力で、
「人いきいき、街わくわく、誇れる八千代」を！！

成長タウン八千代のワン・ツービジョン

Statement (声明)

「陽だまりの街づくり＝市民本位の市政を復興する」
「わくわくする街づくり＝成長タウンの創造的施策」

この二つの柱をビジョンとし、掲げた政策は、スピードと実行力で実現していきます。

また、住民ニーズや、顧客志向の欠落、地域文化や価値観の軽視など、克服すべき現状を見据え、地域の実情に即した解決策を立案し展開します。

***国の政策メニュー頼みの企画立案、他の地域の成功事例の容易な模倣、上から目線の街づくり、ないものねだりの思考は排除。

Statement1



「陽だまりの街づくり」

= 市民本位の市政を復興する

70億円を超える箱もの主体の建設など、新しい事業のみに目を奪われ、子どもやお年寄り・障がい児者のための施策が犠牲になることは悲しいことです。

一方、既存施設や老朽化施設の改修は順次進めていかなければなりません。

温かみのある血の通う施策を実践し、多くの市民が「陽だまりの街・八千代」に住んで良かったと言える街づくりを進めてまいります。

① 教育・子育て

- 読み・書き・計算、国語・理科教育の推進充実
- 学校図書館の充実と一部開放
- 教材・教具購入予算の大幅増、可動式黒板の導入
- 保育園・小中学校の修繕・維持管理予算の増額
(雨漏り・トイレ改修など)
- 親学の導入など、家庭での教育・子育てに対する支援の実施
- 学童保育の待機児童解消と内容の充実
- 空き教室や自治会等の地域資源を活用した子供の居場所づくり
- 東葉高速鉄道の通学定期の割引拡大

② 医療・福祉

- 子ども医療費窓口負担 200 円を最低でも小学校 6 年生まで拡大
- 子宮頸がん予防・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの接種に対する助成
- ぐるっと号の高齢者無料化と、福祉タクシーの復活
- 虐待・独居老人等の見守り対策の強化
- ふれあい大学校の充実・拡大
- 認知症に対する医療体制の充実、身体疾患との合併症での病床確保
- 医療は「いのち」の安全保障、地域連携医療の支援
- 国庫補助廃止後も妊婦健診 15 回助成の継続
- ガン予防の対策の充実ーがん検診等の自己負担金を半額に
- 心身障がい児者への医療、保健、福祉を連携させた総合支援の拠点づくり

③ 総合政策

- 70 億円を超える新川周辺地区整備事業の見直し
(総合グラウンド、図書館、ギャラリー、観光交流センター、橋の新設等)
- 四市複合事務組合の斎場の八千代市内への設置計画の見直し
- 単身者、高齢者等に配慮し 10ℓ用ゴミ袋の早期導入
- 数年休止している流れるプールの再開
- 自然災害及び新型インフルエンザ対策等を含む危機管理体制の強化。
危機管理推進室の設置
- 道路冠水対策の推進、歩道の整備、橋梁の長寿命化への対応
- 土地改良基盤整備の推進

「わくわくする街づくり」

= 成長タウンの創造的施策

これからの街づくりは、市民の意識と行動に支えられた「市民力」「地域力」が主体となって進められていくことが大切です。

「成長タウン八千代」の街づくりは**交流**が出发点です。

「知恵（人材育成など）」「活動（イベント・祭りなど）」「物（生産物・既存施設等）」での交流を活発化し、新しい八千代らしさを創造しよう。

そして、、、誇れる八千代に！

CIVIC PRIDE 醸成プログラムの発動

① 市民交流の居場所と機会づくり

⇒市民が優しく包まれる時間と空間の創造

- ☆ （仮）新川ルネッサンス→新川とその周辺を中心とした交流事業や拠点づくり
- ☆ 賑わいと魅力ある商店街の再生→子ども商店街や日貸店舗、週貸店舗の活用
- ☆ クラブ型市民農園→年間を通じて楽しく体験できる農業空間の創造、良好な都市環境の形成と農地の保全
- ☆ 地元農業と飲食業のビジネスマッチング、地元農産品の直売体制と地産地消の推進。
- ☆ コミュニティサイクルの設置→指定区間で自由に乗り降り。災害時はロックフリー

② 「ハコモノ、器」の前に地域愛を

⇒市民の共感と感動が地元への愛情を呼び起こすソフト事業
～スポーツ、アート、グルメ、自然、ミュージック等を柱に

- ☆ みんなで、夏の花火大会をずっと続けよう
- ☆ 「街づくりサミット」の開催→地域別街づくり構想のコンペ
- ☆ 市民一丸となって応援できるプロスポーツチームを育成しよう
- ☆ 世界で活躍できる人材をみんなで応援しよう（スポーツ、芸術、学問）
- ☆ アートコミュニティーで街を明るく
- ☆ 八千代グリーンプロジェクト→植樹と美しい緑の保全



西田 ゆずる 事務所
千葉県八千代市ゆりのき台 4-7-7 飯田第 8 ビル 3 階 電話 047-486-4680
www.55nishida.com